

日本地質学会第124年学術大会（2017 愛媛大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月17日（日）午前

会場	第1会場（南加記念ホール）	第2会場（グリーンホール）	第3会場（共通講義棟 A21）
	T1. 文化地質学（一般公開）	T4. 日本列島の起源・成長・変化	T7. スロー地震の地質学
	座長：1-6 長 秋雄, 7-10 能美洋介	座長：1-6 磯崎, 7-12 青木	座長：1-4 氏家恒太郎, 5-8 金川久一
8:45	8:45 T1-O-1 北海道産石材の文化地質学。特に小樽軟石の文化とその地質学的背景：事例研究。* 松田義章	8:45 T4-O-1 八方尾根の変成堆積岩中のジルコンU-Pb年代。* 宮下 敦 ・Pastor-Galán Daniel・辻森 樹・Yi Keewook	
	9:00 T1-O-2★ 山形県小国地域周辺の「大蛇伝説」と斜面崩壊・天然ダムの形成。* 川辺孝幸	9:00 T4-O-2 太平洋型沈み込み帯のスラブ流体の特徴：大佐山産青色片岩のフェンジャイト酸素・水素同位体組成による証拠。* 辻森 樹 ・Pastor-Galán Daniel・Álvarez-Valero Antonio M.	
	9:15 T1-O-3 首都圏の建造物における関東大震災前後の石材利用の変化。* 乾 睦子	9:15 T4-O-3 四国三波川帯の変成史の再検討：ジルコンU-Pb年代からの制約。瀬尾好貴・* 青木一勝 ・大林秀行・坂田周平・平田岳史・丸山茂徳	9:15 T7-O-1 (招待) ★ スロー地震の多様性と地質学的背景。* 小原一成
	9:30 T1-O-4 巨大環濠古墳と活断層。* 中川要之助		9:45 T7-O-2 Fluid pressure development beneath the décollement at the Nankai Trough off Cape Muroto, Japan。* 廣瀬丈洋 ・神谷奈々・山本由玄・Heuer Verena・稲垣史生・諸野祐樹・久保雄介・Expedition 370 Scientists
	9:45 T1-O-5★ 石見銀山に遺された江戸時代の鉱石および鉱物標本。* 石橋 隆 ・伊藤 謙・仲野義文・藤原雄高・渡辺克典	9:30 T4-O-4 鳥取県西部、大山西麓部に露出する片麻岩類の帰属：ジュラ紀高温型変成岩の存在。* 堤 之恭 ・磯崎行雄・木谷啓二・寺林 優	10:00 T7-O-3 南海トラフ付加体泥質堆積物の摩擦特性の深度変化。* 金川久一 ・星野紘輝・阿部浩典・澤井みち代
	10:00 T1-O-6 長崎県西彼杵半島のシシ垣遺構：シシ垣の経路と石材総重量の推定。* 箴島聖二	9:45 T4-O-5 (招待) 花崗岩岩石学から見た日本列島大陸地殻成長史。* 土谷信高	10:15 T7-O-4 沈み込み帯断層物質の摩擦速度依存性における有効垂直応力の影響。* 堤 昭人 ・比嘉咲希・並木由香
	10:15 T1-O-7 香川県五色台と小豆島の山岳霊場の地形学・地質学的特徴の比較。* 川村教一	10:00 T4-O-6 日高山脈周辺の堆積岩コンプレックスから新たに得られたジルコンU-Pb年代：地帯構造的視点からの重要性。* 七山 太 ・山崎 徹・高橋 浩・岩野英樹・檀原 徹・平田岳史	10:30 T7-O-5 (招待) ★ Rheology of the Slow Earthquake Source: Geological Constraints from the Damara Belt, Namibia。* Ake Fagereng
	10:30 T1-O-8 ジオの物語の不思議を引き出すジオ鉄写真。* 横山俊治 ・藤田勝代・上野将司・加藤弘徳・今尾恵介・安田 匡・須賀康正	10:15 T4-O-7 魚歯/骨片化石のネオジム同位体比から推察した日本海の閉閉史：北海道・東北本州弧のテクトニクスとの関連性。* 小坂由紀子 ・堀川恵司・浅原良浩	11:00 T7-O-6 沈み込みプレート境界域に発達する剪断脈とスロー地震の関連性。* 氏家恒太郎 ・最首花恵・木下貴裕・大坪 誠
	10:45 T1-O-9 (招待) ★ ジオ鉄の取組み－9年目の普及活動と新たなアプローチ。* 藤田勝代	10:30 T4-O-8 西南日本の時計回り回転と日本海拡大。* 星 博幸	11:15 T7-O-7 深部スロー地震発生域における流体-岩石相互作用：九州四万十付加体積峰メランジュの例。* 西山直毅 ・野呂和也・氏家恒太郎
	11:15 T1-O-10 (招待) ★ 地質が導く地形・植生と地域社会。* 波田善夫	10:45 T4-O-9 富山トラフと飛騨山脈の地形発達。* 竹内 章	11:30 T7-O-8 カルサイト応力計によるスロー地震断層の地質学的な証拠。* 大園宣明 ・坂口有人
		11:00 T4-O-10 低角MTLの活動時期：三河大野地域のMTL両側に産する白亜系砂岩の比較ジルコン年代学。* 磯崎行雄 ・長谷川遼・大友幸子・堤 之恭	
		11:15 T4-O-11 白亜紀日本の前弧堆積盆の多様性：愛媛県宇和島層群の碎屑性ジルコンU-Pb年代測定。* 長谷川遼 ・磯崎行雄・中畑浩基・堤 之恭	
		11:30 T4-O-12 (招待) 西南日本白亜紀堆積物の大規模水平移動とデタッチメント断層による島弧地殻の海溝への大規模崩落。* 鳥海光弘	

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。（招待）：招待講演。（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演

日本地質学会第124年学術大会（2017愛媛大会）講演プログラム（口頭）

■9月17日（日）午前

会場	第4会場（共通講義棟 A24）	第5会場（共通講義棟 A31）	第6会場（共通講義棟 A35）
	R8. 海洋地質	R3. 噴火・火山発達史と噴出物	R4. 変成岩とテクトニクス
	座長：1-6 小原泰彦, 7-10 板木拓也	座長：1-3 長井雅史, 4-6 上澤真平	座長：1-5 吉田健太, 6-9 池田 剛, 10-13 河上哲生, 14-18 レーマン・ハフィーズ
8:45	<p>8:45 R8-O-1 室戸-足摺沖隆起帯の地質構造と最近の変動. *芦寿一郎・高下裕章・大出晃弘・山口飛鳥・辻健・池原 研</p> <p>9:00 R8-O-2 南海トラフ土佐ばえ海盆における深海底活断層活動履歴復元の試み-非破壊計測によるコア対比. *岩井雅夫・鍵山侑・池原研・金松敏也・芦寿一郎</p> <p>9:15 R8-O-3 別府湾最奥部の“イベント層”の示すもの. *池原 研・加三千宣・入野智久・山本正伸・竹村恵二・山田圭太郎・原口 強</p> <p>9:30 R8-O-4 日本海溝に沈み込む遠洋性堆積物の不均質分布とプレート境界断層浅部のすべり伝播. *山口飛鳥・中村恭之・福地里菜・倉野紘彰・池原 研・金松敏也・新井和乃・宇佐見和子・芦寿一郎</p> <p>9:45 R8-O-5 相模湾とその周辺部の海底谷について—伊豆弧北端のテクトニクス序説—. *藤岡換太郎・平田大二・高橋直樹・柴田健一郎・西川 徹及びKOOHOOメンバー</p> <p>10:00 R8-O-6 伊豆-小笠原前弧域で掘削された前弧玄武岩・ボニナイトの岩石物性と化学組成. *本多睦美・道林克禎・藤井昌和・山本由弦・針金由美子</p> <p>10:15 R8-O-7 モホールへの道：ゴジラメガマリオン掘削提案. *小原泰彦・道林克禎・小野重明</p> <p>10:30 R8-O-8 (招待) ★ 南大洋の古海洋変動ダイナミクス研究の最近の進展. *池原 実</p> <p>11:00 R8-O-9 (招待) ★ 数百～数千年スケールで起こる東アジア夏季モンスーン変動の開始時期と時代変化、そのグローバル気候変動における位置づけ. *多田隆治・入野智久・烏田明典・池原 研・佐川拓也・板木拓也・杉崎彩子・久保田好美・池田昌之・Lu Song・関 有沙・黒川駿介・三武 司・村山雅史</p> <p>11:30 R8-O-10 鮮新世末から更新世始めの日本海の海洋表層環境変動：秋田県北部峰浜地域に分布する上部鮮新統～下部更新統の浮遊性有孔虫化石群集から. *山崎 誠・椿野将輝・池原 実・佐藤時幸</p>	<p>8:45 R3-O-1 十和田火山, 先カルデラ期後期の火砕流堆積物. *工藤 崇</p> <p>9:00 R3-O-2 隠された高頻度噴火およびラハールの湖底イベント堆積物による履歴復元：安達太良火山・磐梯火山と猪苗代湖. *片岡香子・長橋良隆</p> <p>9:15 R3-O-3 秋田県湯沢市蓮台寺のカオリンに富む礫質堆積物の産状と起源. *鹿野和彦・石山大三・大場 司・大口健志・藤本幸雄</p> <p>9:30 R3-O-4 海洋性島弧火山の岩脈群の古応力解析：オマーン・オフィオライトのV2島弧火成活動. *海野 進・草野有紀・山路 敦</p> <p>9:45 R3-O-5 北部伊豆弧大室ダシ火山の発達史と火山活動履歴. *谷健一郎・石塚 治・Iona McIntosh・Alex Nichols・正木裕香・池上郁彦・及川輝樹・角野浩史・岡村 慶・豊福高志</p> <p>10:00 R3-O-6 小笠原硫黄島火山の後カルデラ火山活動噴出物. *長井雅史・小林哲夫</p>	<p>9:00 R4-O-1 接触変成岩における炭質物石墨化の圧力-温度-時間依存性. *村松 樹・中村佳博・マドスーダン サティッシュクマール</p> <p>9:15 R4-O-2 北部九州糸島地域の接触変成岩中の斜長石斑状構造の変形履歴. *池田 剛・山崎由貴子</p> <p>9:30 R4-O-3★ 東南極リュット・ホルム岩体に産するコランダムと角閃石の間に発達する3層構造コロナ：物質移動と組織発展. *森 祐紀・池田 剛</p> <p>9:45 R4-O-4★ 中央ネパール高ヒマラヤ片麻岩類のザクロ石に包有されるナノ花崗岩包有物. *河上哲生・酒井治孝・佐藤活志</p> <p>10:00 R4-O-5 南西インド洋海嶺Prince Edwardトランスフォーム断層のウルトラマイロナイト. *柿畑優季・道林克禎・DickHenry</p> <p>10:15 (休憩)</p> <p>10:30 R4-O-6 (招待) 八重山変成岩類とそのテクトニクス. *石塚英男</p> <p>11:00 R4-O-7 北海道旭川市西方の神居古潭変成岩類における上昇時の流体移動による重複変成作用の証拠. *シン ウォンジ・竹下 徹</p> <p>11:15 R4-O-8 西彼杵泥質片岩変成ジルコンの成長動力学と成長時間 II. *宮崎一博・菅 賢志・森 康・重野未来・岩野英樹・檀原 徹・八木公史・大林秀行・西山忠男・平田岳史・俞 震甫</p> <p>11:30 R4-O-9 日高変成帯上部層変成岩類のジルコンU-Pb年代. *高橋 浩・七山 太・山崎 徹・岩野英樹・檀原 徹・平田岳史</p>

(21)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。（招待）：招待講演。（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演

日本地質学会第124年学術大会（2017愛媛大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月17日（日）午後

会場	MEMO
14:30	

第2会場（グリーンホール）	
T8. 中央構造線と中央構造線活断層系	
座長：1-4 早坂康隆, 5-8 高木秀雄, 9-12 山北 聡	
14:30	T8-O-1 (招待) 中部九州の地質図幅に表された西南日本の基本構造. *齋藤真・宮崎一博
15:00	T8-O-2 九州における中央構造線についての諸問題：肥後帯と領家帯. *高木秀雄
15:15	T8-O-3 九州の中央構造線とこれに関連した震源断層・活断層. *山北聡
15:30	T8-O-4 九州：西南日本弧と琉球弧の遷移帯. *眞島英壽
15:45	T8-O-5 紀伊半島中央部に位置する高見山の中央構造線露頭. *井守智大・藤本光一郎・重松紀生
16:00	T8-O-6 中央構造線発達史の新たな展開（Ridge subductionによる市之川フェーズ，左横ずれトランスプレッションの先駆部フェーズ）. *窪田安打・竹下 徹・八木公史・板谷徹丸
16:15	T8-O-7 中央構造線と「中央構造線活断層系」の関係について. *早坂康隆・古橋拓也・川口健太
16:30	T8-O-8 (招待) “中央構造線活断層系”の震源断層. *伊藤谷生
17:00	T8-O-9 地球物理学的にみた中央構造線活断層系の深部形状と震源断層. *佐藤比呂志・Van Horne Anne・加藤直子・松原誠・ヤノトモコ・松浦律子
17:15	T8-O-10 佐田岬半島におけるMTLに関連する脆性断層の時空区分. *小松正幸・薦田靖志・早坂康隆・豊島剛志
17:30	T8-O-11 伊予灘における音波探査記録を用いた中央構造線断層帯周辺の地質構造の検討. *高橋恭平・佐藤蒼司・足達健人・西坂直樹・大西耕造・大野裕記・池田倫治・辻 健
17:45	T8-O-12 西南日本の微小地震の下限震度不均質性と中央構造線活断層系. *古橋拓哉・早坂康隆

第3会場（共通講義棟 A21）	
R14. 沈み込み帯・陸上付加体	
座長：1-4 氏家恒太郎, 5-8 橋本善孝, 9-12 坂口有人	
14:30	R14-O-1 (招待) ★ 沈み込み帯浅部の構造的特徴：室戸沖南海沈み込み帯と房総半島付加体. *山本由弦・山本裕二・奥津なつみ・山田泰広・栗本悠平・王 乾・福岡純一・加藤優志・張 鋒・阪口 秀・Exp. 370乗船研究者
15:00	R14-O-2 南海トラフにおける掘削パラメータを利用した連続地層強度の推定と地質解釈の例. *濱田洋平・北村真奈美・山田泰広・真田佳典・杉原孝充・齋藤実篤・MOE KYAW・廣瀬丈洋
15:15	R14-O-3 房総半島新第三系前弧海盆における被熱構造と圧密特性. *神谷奈々・山本由弦・宇都宮正志・福岡純一・王 乾・張 鋒・林 為人
15:30	R14-O-4 美濃帯犬山地域に分布するチャートの高速摩擦特性. *本橋銀太・大橋聖和・氏家恒太郎
15:45	R14-O-5 微量元素分析で紐解く沈み込み帯断層の摩擦溶融過程. *石川剛志・氏家恒太郎
16:00	R14-O-6 四国西部，明浜地域の四万十帯北帯に発達する断層帯の形成過程. 黒木萌恵・*大橋聖和
16:15	R14-O-7 延岡衝上断層剪断帯の微細組織と流体依存性. *長谷川亮太・山口飛鳥・福地里菜・北村有迅・木村 学・濱田洋平・石川剛志
16:30	R14-O-8 (招待) ★ シリカ析出と流体流動—石英とアモルファスと鉱物脈. *岡本 敦
17:00	R14-O-9 四国西部，伊予三浦半島におけるメランジ記載と古地温構造解析. *織田雅俊・大橋聖和
17:15	R14-O-10 沈み込みに伴う累進的なメランジュの形成：九州東部四万十付加体嶺峰メランジュの例. *木下貴裕・氏家恒太郎
17:30	R14-O-11 三波川変成岩類と白亜紀四万十付加体の構造関係について. *志村侑亮・常盤哲也・竹内 誠・森 宏・山本鋼志
17:45	R14-O-12 紀伊半島四万十帯枯木灘層の層序・K-Ar年代および牟婁付加シークエンスの変形構造. *中屋志津男・中屋志郎

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。（招待）：招待講演。（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演

日本地質学会第124年学術大会（2017愛媛大会）講演プログラム（口頭）

■9月17日（日）午後

会場	第4会場（共通講義棟 A24）	第5会場（共通講義棟 A31）	第6会場（共通講義棟 A35）
	T5. 三次元地質モデル研究の新展開 座長：1 木村克己, 2-3 太田英将, 4 高野 修	T2. 最近の鬼界カルデラ研究の成果と今後の課題 座長：1-6 七山 太, 7-10 清川昌一, 11-14 前野 深	R4. 変成岩とテクトニクス 座長：10-13 河上哲生, 14-18 レーマン・ハフィーズ
14:30	<p>14:30 T5-O-1 (招待) ★ 建設関連における3次元地質解析技術の実践と展望. *西山昭一・3次元地質解析技術コンソーシアム会員</p> <p>15:00 T5-O-2 ボーリングデータを利用した浅部地盤の三次元グリッドモデル構築プログラムの開発. *花島裕樹・木村克己</p> <p>15:15 T5-O-3 ボーリングデータ解析に基づく三次元地盤モデル構築と伏在第四紀断層の推定：東京低地とその隣接台地域の例. *木村克己・花島裕樹・西山昭一・大井昌弘</p> <p>15:30 T5-O-4 (招待) ★ 東部南海トラフ第二渥美海丘周辺におけるメタンハイドレート濃集過程の三次元モデリング. *藤井哲哉・タンティン アオン・小松侑平</p> <hr/> <p>R18. 情報地質とその利活用 座長：1-3 斎藤 眞</p> <p>16:15 R18-O-1★ 長野県デジタル地質図2015を使った斜面崩壊発生確率モデルの高度化. *富樫 均・川越清樹・齋藤洋介</p> <p>16:30 R18-O-2 3次元地質モデリングシステムを有効活用するための地層対比支援システムの検討. *升本真二・根本達也・櫻井健一・ラガワン ベンカテッシュ・野々垣 進</p> <p>16:45 R18-O-3★ 地質情報のLOD公開と標本データベースにおける利用例. *内藤一樹</p>	<p>14:30 T2-O-1 鬼界カルデラにおける7.3 ka超巨大噴火の推移：クライマックスに至るまでの現象と時間スケール. *前野 深</p> <p>14:45 T2-O-2★ 約7300年前の鬼界カルデラ形成噴火（K-Ah噴火）のマグマ供給系. *松本亜希子・中川光弘・小林恭平・前野 深</p> <p>15:00 T2-O-3 薩摩硫黄島での火山体掘削調査：鬼界アカホヤ噴火（K-Ah噴火）の噴火準備過程解明を目指して. *中川光弘・前野 深・松本亜希子・小林恭平</p> <p>15:15 T2-O-4 古地磁気方位と永年変化から読み取る鬼界カルデラ形成噴火の継続時間. *長谷川健・望月伸竜・大岩根尚</p> <p>15:30 T2-O-5 幸屋火砕流の流動・堆積機構と給源カルデラ. *鈴木桂子・山根朋己・中岡礼奈・竹内英彦・神戸大学海洋底探査センター一同</p> <p>15:45 T2-O-6 鬼界カルデラにおける鬼界アカホヤ噴火以前の大噴火について. *伊藤久敏・上澤真平</p> <p>16:00 T2-O-7 鬼界カルデラと薩摩硫黄島：海底に残された巨大カルデラの活動史と初期地球の痕跡. *清川昌一</p> <p>16:15 T2-O-8★ 三島村ジオパーク. *大岩根尚</p> <p>16:30 T2-O-9 (招待) ★ 鬼界カルデラ噴火（7.3ka）が南九州の植生および人類に与えた影響－植物珪酸体分析による検討. *杉山真二</p> <p>16:45 T2-O-10 (招待) ★ 鬼界カルデラ噴火後の激甚被災地における再定住プロセスの研究. *柴畑光博</p> <p>17:00 T2-O-11 鬼界アカホヤ噴火に伴う液状化の発生時期. *成尾英仁・小林哲夫</p> <p>17:15 T2-O-12★ 四国南西部沿岸、宿毛コアにおいて確認されたアカホヤ火山灰とそれに関連したイベント堆積物 [速報]. *辻 智大・七山 太・山口龍彦・池田倫治・近藤康生・前野 深・木村一成</p> <p>17:30 T2-O-13 広域に分布するアカホヤ津波堆積物の識別. *山田昌樹・藤野滋弘・佐竹健治</p> <p>17:45 T2-O-14 7.3 ka津波は鬼界カルデラ噴火で発生したのか?. *七山 太・前野 深</p>	<p>14:30 R4-O-10 (招待) 三波川エクロジャイトの多様性. *高須 晃</p> <p>15:00 R4-O-11 四国中央部三波川変成帯猿田川流域におけるナップ境界近傍の温度構造と年代分布. *川口健太・早坂康隆・廣瀬丈洋</p> <p>15:15 R4-O-12 Zr-in Rutile and Ti-in-Zircon thermometry: application to the UHP eclogites. *Hafiz Ur Rehman, Hao Yang Lee, Sun-Lin Chung, Yoshiyuki Iizuka, Hiroshi Yamamoto</p> <p>15:30 R4-O-13 Mass Transfer during Formation of Secondary Olivine within Subduction Zone: Example from the Khantaishir Ophiolite, Western Mongolia. *Otgombayar Dandar, Atsushi Okamoto, Masaaki Uno, Takayoshi Nagaya, Noriyoshi Tsuchiya</p> <p>15:45 (休憩)</p> <p>16:00 R4-O-14 イタリアのドラマイラ岩体で発生した過剰アルゴン波. *板谷徹丸・兵藤博信・今山武志・Chiara Groppo</p> <p>16:15 R4-O-15 Zircon geochronology in metacarbonate rocks from Sørdane Mountains, East Antarctica. *Satish-Kumar M.・Horie, K.・Williams S. Ian・Takehara, M.・Hokada, T.・Otsuji, N.</p> <p>16:30 R4-O-16 Spatial age distribution and tectonic model across the thrust contact between the Proterozoic Eastern Ghats Belt and the Archean East Indian craton: new insight from the river sediments. Amitava Chatterjee・*Kaushik Das</p> <p>16:45 R4-O-17 Cryo-FIB-SEM-EDSを用いた流体包有物の個別化学組成分析：キルギス共和国マクバル岩体の超高压変成岩の例. *吉田健太・Orozbaev Rustam・平島崇男・三宅亮・土山明・Bakirov Apas・高須晃・Sakiev Kadyrbek</p> <p>17:00 R4-O-18 変成鉱物のサイズグレーディングとリーゼガング構造遷移. *島海光弘</p>

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。（招待）：招待講演。（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演

日本地質学会第124年学術大会（2017愛媛大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月17日（日）午後

会場	第7会場（共通講義棟 A41）	
	R22. 第四紀地質	
	座長：1-4 ト部厚志, 5-8 竹下欣宏, 9-11 北村晃寿	
14：30	14：30	R22-O-1 堆積物中のTOC濃度変動と日本海において生物生産性を支配する要因との関係. *公文富士夫
	14：45	R22-O-2 北海道藻琴湖における洪水性ラミナの形成過程. *瀬戸浩二・香月興太・園田 武
	15：00	R22-O-3 福島県猪苗代湖湖底堆積物の2011年イベント層の識別. *長橋良隆・片岡香子・難波謙二
	15：15	R22-O-4 大阪海岸低地の形成とその規制要因. *中条武司・趙 哲済・小倉徹也
	15：30	R22-O-5 北海道の日本海沿岸で発生した二つの津波の浸水シミュレーションと津波堆積物による検証：1741年と12世紀頃の津波について. *川上源太郎・伊尾木圭衣・柳澤英明・加瀬善洋・仁科健二・小安浩理・谷岡勇市郎
	15：45	R22-O-6 響灘沿岸の海岸低地におけるイベント堆積物. *ト部厚志・濱崎真二・小林善也
	16：00	R22-O-7 伊豆諸島四島の後期完新世の地殻変動・津波・高潮. *北村晃寿
	16：15	R22-O-8 東北日本に分布する更新世の赤色土と最終間氷期以降の地殻変動速度. *仲川隆夫
	16：30	R22-O-9 79万年前にインドシナ半島南部で起きた小天体衝突によるエジェクタ層の特定. *多田隆治・多田賢弘・Carling Paul・Songtham Wickanet・Thuyen Le Xuan・常 昱・田近英一
	16：45	R22-O-10 秋田県北部の縄文時代環状列石について. *藤本幸雄
	17：00	R22-O-11 松江平野の古環境（4）. *渡辺正巳・瀬戸浩二・高安克己・山田和芳・奥中亮太

第8会場（共通講義棟 A45）	
R11. 堆積過程・堆積環境・堆積地質	
座長：1-3 酒井哲弥, 4-7 松本 弾	
16：00	R11-O-1（招待）★ 混濁流のダイナミクス：研究の動向と今後の展望. *成瀬 元
16：30	R11-O-2 河川～湖沼成シークェンスにおける堆積相および生痕群集：ユタ州ユインタ堆積盆に露出する始新統ユインタ層およびドゥシェーンリバー層の例. *佐藤隆司・Marjorie, A. Chan. Allan A. Ekdale
16：45	R11-O-3 東北日本太平洋沿岸南相馬市小高区井田川地区のエスチュアリー埋積完新統中の津波堆積物. *保柳康一・太田勝一・内山しおり・角張友律
17：00	R11-O-4 東北日本の岩盤河川侵食パラメーターの推定：東北日本弧隆起速度履歴の復元へ向けて. *中島由以佳・成瀬 元
17：15	R11-O-5 三陸沿岸域に分布する3.11津波堆積物の粒子特性. *横山由香・坂本 泉・八木雅俊・藤巻三樹雄
17：30	R11-O-6★ 日本海拡大と西南日本弧の古生態系：中新統三崎層群における海底生態系の特異性とその要因. *奈良正和
17：45	R11-O-7 海底扇状地の生涯における堆積形態変化傾向と外的内的規制要因. *高野 修・徳橋秀一・中嶋 健

■ MEMO ■

(23)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。（招待）：招待講演。（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演